



軽防協ニュース速報

2017年第1四半期(1月-3月)の伝染病発生状況

2017年6月配信

(International Collating Centre からの情報)

オーストラリアからの報告は、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。しかし、オーストラリアからの 2016 年第 4 四半期の報告がわずかに遅れている。報告され次第直ちに配信する予定である。その他の国の 2017 年第 1 四半期の報告は通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2016 年第 4 四半期の報告

オーストラリアからの第 4 四半期の報告は後日配信する。

2017 年第 1 四半期の報告

アルゼンチン

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

輸入検疫にて、アラブ種種牡馬の精液が EVA 陽性として検出された。このため、アルゼンチンは EVA 清浄国のままである。検査機関は INTA (カステラル市) で、ウイルス分離および RT-PCR にて診断された。

オーストラリア

報告未着。

カナダ

馬伝染性貧血 (EIA)

2017 年 1 月 1 日から 3 月 31 日の間に、ケベック州で 1 例およびサスカチュワン州で 9 例、計 10 例の EIA 陽性例が報告された。陽性例は、ケベック州の 1 施設およびサスカチュワン州の 4 施設で確認された。

サスカチュワン州の 4 施設は全て疫学的な関連があり、重症例も確認された。いずれの施設も以前、カナダ食品検査庁から EIA 疾病調査活動を受けており、陽性例の隔離および殺処分の管理措置がなされた。

チリ

報告未着。

デンマーク

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2017年2月1日から3月22日の間に、1施設において競技馬5例で確認された。菌分離によって確定診断がなされた。

フランス

(馬感染症疫学監視ネットワーク RESEP からの情報)

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による流産

2017年1月11日にパ＝ド＝カレー県において EHV-1 による流産の発生がサドルブレット種牧場で3例確認された。流行は2016年12月28日から始まっており、他の2例は2016年12月30日に確認されている。胎子臓器を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2017年2月1日、セ＝ヌ＝エ＝マルヌ県で EHV-1 による流産が1例確認された。胎子臓器を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2017年2月10日、ニエ＝ブル県で EHV-1 による流産が1例確認された。胎子臓器を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2017年2月24日、マンシュ県で EHV-1 による流産がワクチン未接種の4歳フレンチトロッター1例で確認された。胎盤を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2017年3月13日、ロワール県で EHV-1 による流産が8歳フレンチトロッター1例で確認された。胎盤を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2017年3月24日、パ＝ド＝カレー県で EHV-1 による流産がワクチン未接種のサラブレッド種1例で確認された。胎子肝臓を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2017年3月31日、サルト県で EHV-1 による流産がワクチン接種された9歳フレンチトロッター種1例で確認された。子宮スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2016年4月10日以降、新規1例が同一施設で確認された。感染馬は、ワクチン接種した17歳フレンチトロッター種で黄疸を認めた。同じ牧場の繁殖牝馬5例も流産を認めた。胎子臓器を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による神経型疾患

2017年2月27日、パ＝ド＝カレー県において EHV-1 による神経型疾患の発生が1例確認された。血液を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による呼吸器疾患

2017年3月3日、パ＝ド＝カレー県の乗馬学校にて EHV-1 による呼吸器疾患が1例確認された。感染馬は5歳フレンチサドルブレッド種牝馬で、食欲不振、発熱、鼻漏等の症状を呈した。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

2017年3月9日、バラン県で EHV-1 による呼吸器疾患が1例確認された。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。3週間前には同じ施設で流産が発生しているが、EHV-1 感染によるものかは不明である。

2017年3月24日、ニエーブル県で EHV-1 による呼吸器疾患が1例確認された。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による流産

2017年3月3日、EHV-4 による流産がワクチン未接種の6歳アンダルシアン種1例で確認された。胎子臓器を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

8件の EHV-4 による呼吸器疾患が確認された(6件は1例、1件は2例、1件は3例)。発生地域はアン県、カルバドス県、ロアール＝アトランティック県、オルネ県、パ＝ド＝カレー県であった。感染馬は発熱や鼻漏、沈うつ等の症状を呈した。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ピロプラズマ病

フランスでは依然として風土病である。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

21件の発生が2017年第1四半期に報告された(17件は1例、1件は3例、1件は5例、1件は6例、1件は7例)。発生地域はオード県、カルバドス県、コート＝ドール県、ウール県、オート＝ガロンヌ県、ジロンド県、エロー県、アンドル＝エ＝ロアール県、ロアール＝アトランティック県、パ＝ド＝カレー県、ソーヌ＝エ＝ロアール県、セーヌ＝マリタイム県、セーヌ＝エ＝マルム県、ビエンヌ県であった。感染馬は鼻漏、発熱、リンパ節腫脹、発咳、沈うつ等の症状を呈した。確定診断は細菌培養(1例)、鼻咽頭スワブ(9例)、膿もしくは膿様鼻漏(4例)、鼻腔スワブ(2例)、気管洗浄液(2例)を用いた PCR 検査によって確定診断がなされた。

ドイツ

馬伝染性貧血 (EIA)

2017年1月11日、フレンドリッチ・ロフラー研究所(国立機関)はランドクリース・アンベルグ＝サルバッハ(ババリア)の施設において、EIA の発生を確認した。感染を疑う5例

のうち 1 例が、寒天ゲル内沈降 (AGP) テストで陽性を認めた。感染馬は安楽死となり、移動制限や検疫区域に飼養されているウマ科動物のスクリーニング検査を含む検疫体制が敷かれた。規制措置期間中の 2017 年 1 月 19 日、エルランゲンの地域リファレンスラボラトリーは上記施設内で更に 2 例の EIA 不顕性例を確認した。2 例は AGP テストで陽性を確認した。発生の原因は明らかになっていない。

Dr.Boese 研究所有限公司 (HBLB の CEMO 認定研究所) による追加結果

馬伝染性子宮炎(CEM)

2017 年第 1 四半期の中に、異なる 6 施設において CEM の発生が 8 例確認された。確定診断は細菌培養もしくは生殖器スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による流産

2017 年第 1 四半期の中に、異なる 4 施設において EHV-1 による流産の発生が 4 例確認された。確定診断は胎子肺生検組織、子宮排出物、子宮内膜スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による呼吸器疾患

2017 年第 1 四半期の中に、異なる 2 施設において EHV-1 による呼吸器疾患の発生が 2 例確認された。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

ウマヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器疾患

2017 年第 1 四半期の中に、異なる 4 施設において EHV-4 による呼吸器疾患の発生が 6 例確認された。確定診断は鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によってなされた。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2017 年第 1 四半期に、異なる 5 施設において腺疫の発生が 5 例確認された。感染馬は発熱、鼻漏、リンパ節症の症状を呈した。確定診断は、細菌培養、鼻咽頭スワブや下顎リンパ節膿瘍、喉嚢洗浄液を用いた PCR 検査によってなされた。

香港

報告事項なし。

アイルランド共和国

ウマヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1)

2017年第1四半期に7例のEHV-1感染が報告された。発生地域は、カーロー(1例)、キルデア(2例)、リマリック(1例)、ミーズ(1例)、ウェクスフォード(1例)、ティペラリー(1例)であった。更なる情報は得られていない。

非定型ミオパチー (AM)

2017年第1四半期にレンスターで2例のAMが報告された。更なる情報は得られていない。

イタリア

報告未着。

日本

ウマヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による流産

2017年1月3日から3月27日の間に、異なる7施設においてEHV-1による流産の発生が11例確認された。確定診断は北海道日高家畜保健衛生所で実施された。9例はワクチン接種済みであった。

マレーシア

報告未着。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

報告事項なし。

南アフリカ

腺疫 (*Streptococcus equi*)

腺疫は南アフリカでは風土病であり、散発的に発生している。

アフリカ馬疫 (AHS)

2017年第1四半期に、イースタンケープ州とウエスタンケープ州を除く南アフリカ全土でAHSの発生が報告されている。AHS清浄地域であるウエスタンケープ州では、発生していない。AHS汚染地域での発生は、通常この時期に想定されているものである。

馬伝染性子宮炎(CEM)

2017年1月、ハウテン州で精液提供種牡馬に CEM 陽性例が確認された。これは、全ての種牡馬で実施される所定のスクリーニング検査で判明した。CEM 陽性例は 2013 年以降初めてであり、菌株は 2011 年の発生時と同一株であった。隔離と陽性馬の治療は直ちに行われ、管理獣医師によって原因究明中である。また、全国的なサーベイランスが実施されている。

ウマ脳症ウイルス(EE)

南アフリカにおいて EE の検査は、通常 AHS と同時に行われる。2017 年第 1 四半期の間、ハウテン州およびムプマランガ州にて EE の発生が確認された。昨年の同時期に比べて蔓延していない。

アルボウイルス

2017 年 1 月から 3 月の間、ミドルブルグウイルスおよびウエストナイルウイルス(WNV) 陽性例が 2016 年に引き続き南アフリカ全土で発生の増加が確認されている。現在、プレトリア大学ウイルス学部門ウイルス性人獣共通感染症センターの節足動物媒介性新興感染症および呼吸器系ウイルスプログラムによって調査中である。WNV 22 例およびミドルブルグウイルス 30 例の発生が確認されており、1 例は重感染例であった。WNV およびミドルブルグウイルスの陽性例の多くはハウテン州で発生が確認されている。診断には、WNV、ウェセルスbronchウイルス、ミドルブルグウイルス、シンドビスウイルスに特異的なプローブを用いたフラビウイルス属およびアルファウイルス属に対するリアルタイム RT-PCR、およびシュニウイルス、馬脳症ウイルスに対してはそれぞれ特異的 RT-PCR を用いた。WNV に対する血清学診断は、IgM 捕捉 ELISA と確定診断としての中和試験が含まれる。全国の獣医師は年間を通して遭遇した神経症例の検体を送付している。

韓国

ピロプラズマ病

ピロプラズマ病に対する血清学的なサーベイランスがサラブレッド種牡馬、繁殖牝馬、競走馬、ポニーおよび乗馬を含む合計 1380 頭で実施された。血清の採取および検査は韓国検疫検査本部 (QIA) および韓国馬事会 (KRA) によって実施された。結果は慶尚道(韓国南東部)の施設で 1 例(0.07%)のみ *Theileria equi* の陽性例が確認された。診断は、市販の CATT および PCR を用いてなされた。

馬伝染性子宮炎(CEM)

KRA は韓国スタッドブック (<http://studbook.kra.co.kr>) に登録のあったサラブレッド種牡馬および繁殖牝馬の 2086 検体に対して、CEM の検査を実施した。結果は 2086 検体中 20 例(0.96%)の陽性が確認された。診断は生殖器スワブを用いた qPCR 検査によってなされた。QIA は陽性馬に対して、3 回続けて陰性となるまで更なる検査を実施した。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

報告事項なし。

スイス

腺疫 (*Streptococcus equi*)

2017年第1四半期中に腺疫の発生が1例確認された。確定診断は菌分離によってなされた。更なる情報は得られていない。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦 (UAE)

報告未着。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第1四半期以降の中間臨時報告として既に発表していることに注意されたい。腺疫はイギリスの馬では風土病となっている。

アメリカ合衆国

クロストリジウム腸炎

子馬において、*C. difficile* Type A 毒素、Type B 毒素もしくは *C. perfringens* A 型毒素による腸炎の小規模な発生が報告された。*C. piliformis* および *C. novyi* によるティザー病がそれぞれ1例報告された。

コロナウイルス感染症

2017年第1四半期中にネバダ州において、2例のコロナウイルス感染馬が確認された。2例とも軽症例であった。

馬アデノウイルス感染症

ケンタッキー州において、2例のアデノウイルス感染馬が確認された。

馬癩疹

ケンタッキー州において、1例の EHV-3 による性感染症である馬媾疹が確認された。

ウマヘルペスウイルス (EHV) による疾患

EHV-1 および EHV-4 が複数の州で拡大し、EHV-4 は主に弱齢の子馬の呼吸器疾患と関連していた。EHV-1 による流産の発生がケンタッキー州で合計 4 例確認された。EHV-1 による神経疾患の発生は、ルイジアナ州(1 例)、カリフォルニア州(2 例)、ミシガン州(1 例)およびオレゴン州(1 例)で報告された。発生は遺伝子型 ORF30 A2254(いわゆる非神経病原性)に関連したものと遺伝子型 ORF30 G2254(神経病原性)に関連したものが認められた。ニューオーリンズの競馬場での 8 例の発生を除き、他の発生は単独症例であった。

ウマヘルペスウイルス 2 型 (EHV-2) および 5 型 (EHV-5)

2017 年第 1 四半期中に EHV-2 あるいは EHV-5 の発生が複数報告され、呼吸器症状と関連している例もあった。

馬伝染性貧血 (EIA)

イリノイ州の同一施設にて、EIA の発生が 2 例認められた。

馬インフルエンザ

アメリカにおいて馬インフルエンザは風土病である。4 つの州で発生が確認され、複数の発生が認められている。

ピロプラズマ病

テキサス州において *Theileria equi* 感染が 2 例確認され、疫学的に 2016 年春季に発生した症例と関連していた。フロリダ州においてブラジルから輸入された 1 例でも発生が報告された。

ノカルジア症

ケンタッキー州において、*Amycolatopsis* spp もしくは *Crossiella equi* 感染によるノカルジア症 11 例の発生が確認されている。

馬増殖性腸症

ケンタッキー州およびペンシルベニア州において、子馬の *Lawsonia intracellularis* 感染が複数報告された。

サルモネラ症

血清型 B もしくは C1 感染によるサルモネラ症の限定的な発生が報告されている。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

アメリカ合衆国において腺疫は風土病である。2017年第1四半期において、22の州で58件103例の発生が報告された。うち11件は複数の発生が認められている。

ベネズエラ

報告事項なし。